

平成25年度施策評価シート

基本施策	郷土の歴史や伝統文化を守り次代に伝える		
総合計画での位置付け	政策	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして
	分野	4	文化
主要な計画	・歴史文化基本構想、保存活用計画 ・歴史的風致維持向上計画 ・伝統的建築物群保存地区保存計画		
基本施策を実施する背景や課題・目的	<p>・本市は、900件以上の指定文化財、2つの国の重要伝統的建造物群保存地区を有しているが、文化財の管理には多くの費用と手間がかかり、経済情勢の悪化や高齢化などにより所有者による保存が困難になる例が増えている。</p> <p>・本施策は、先人たちの英知と努力により築かれ受け継がれてきた伝統文化は市民一人ひとりの貴重な財産であるという認識のもと、これらを次の世代へ継承することを目的としている。</p>		

1 概要

施策	目的	施策の内容	対象	施策の内容の目的	これまでの取り組み	担当部局
1 文化財などの保存・伝承	後継者不足等により保存や継承が困難となっている文化財を保護し、次世代への継承を図る。	ア 歴史的に価値ある建造物、遺跡、伝承芸能、歴史資料などの保存・活用	市民	文化財等を保護し、次代に伝える	・国・県・市文化財補助、埋蔵文化財の発掘調査、伝統芸能保存会への補助、郷土資料の購入及び展示等による活用を行っている。	教育委員会
		イ 重要伝統的建造物群保存地区における修理修景や防災対策、その周辺地区も含めた歴史的町並みの再生	市民	伝建地区内の伝建物の保存、景観の維持、また災害に強い町並みにするため	・伝建地区内の無電柱化及び道路美装の推進、修理修景への補助、グループ自火報など防災設備への補助を行っている。	教育委員会
		ウ 地域に埋もれている貴重な文化遺産や歴史ある地域資源の調査・再発見	市民	文化財等を保護し、次代に伝える。また、郷土の歴史資料の流出等を防ぐため。	・郷土資料の購入及び展示等による活用、伝統芸能保存会への補助を行っている。	教育委員会
		エ 伝統文化、伝承芸能、伝統行事、伝統の技や味などを継承できる後継者の育成や映像での記録	市民	文化財等を保護し、次代に伝える	・ふるさと伝承芸能記録製作、伝統芸能保存会への補助を行っている。	教育委員会
		オ 地域の歴史を守り伝える活動や技術の継承を行う人材の育成による文化財の保存・活用	市民	文化財を良好に維持し、文化的価値を幅広く広めることで、文化財に対する意識を高める。	・ボランティアガイドの育成講座、高山歴史講座の開催、各支所地域での文化財講座の開催、伝統芸能保存会への補助を行っている。 ・また、屋台の技術後継者育成のため、修理技術を修得しようとする者の補助金制度を設立した。	教育委員会

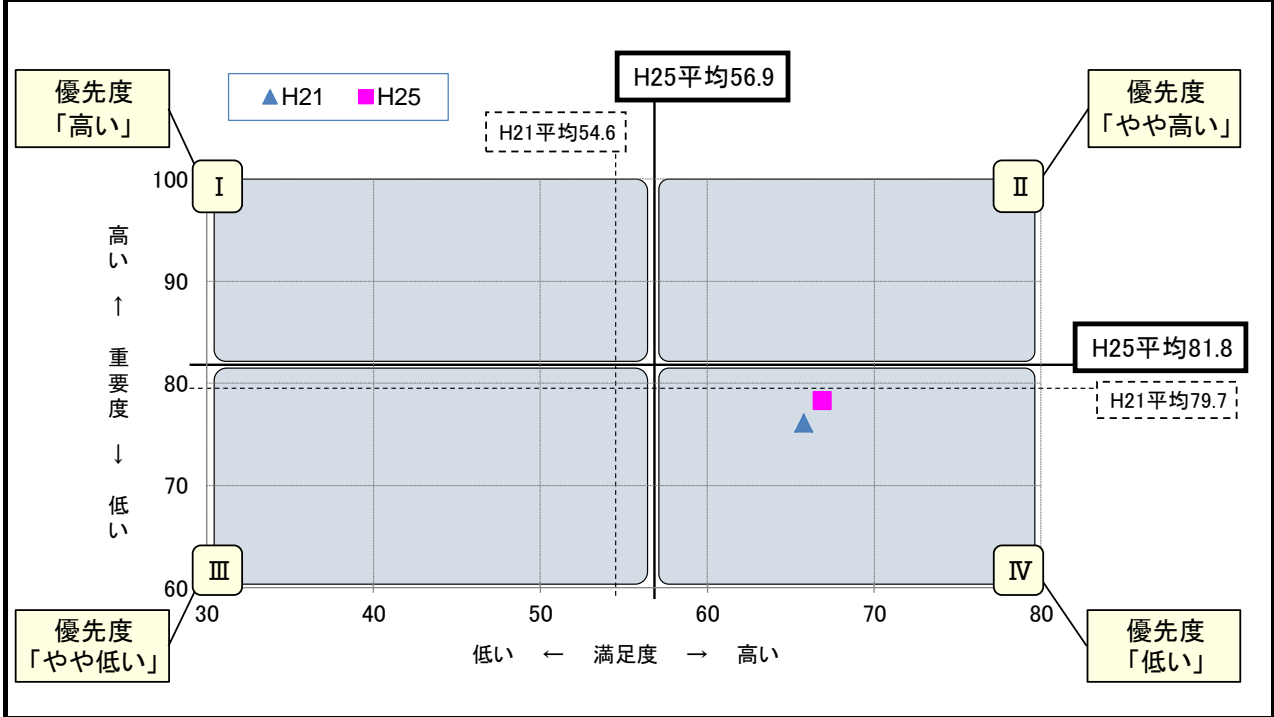
			文化財指定建造物や伝統的建造物群保存地区における建造物の耐震化・バリアフリー化・建築規制緩和に向けた調査	市民・観光客	伝建地区内の伝建物の保存、景観の維持、また災害に強い町並みにするため	・伝建地区等木造建築の耐震化マニュアルの作成に向けた建物調査や、景観町並保存会との協働でのアンケート調査等を行っている。	教育委員会
			市や地域の歴史刊行物の編集	市民	郷土の歴史を次代に伝える	・「国府町史」の発行、高山市史資料編として「高山城下町絵図」「飛騨国絵図」を発行した。現在、市史「建築物編」の作成中	教育委員会
2	歴史・文化を活用した地域づくり	歴史や文化を地域資源として活用し、文化財に対する意識を高め、次世代への継承を図る。	旧矢嶋邸の復元的整備や寺院群などを巡る周遊ルートの整備、歴史的な街道や街道沿いの農山村集落などの景観の保存・活用	市民・観光客	歴史街道の整備や調査、周知により、郷土の歴史を次代に伝える	・まちの博物館を拠点とした周遊マップを作成した。越中街道や平湯街道など歴史的な街道の調査及び整備を行っている。	教育委員会
			世界文化遺産登録への取り組みの推進	市民	世界遺産へ登録することで、文化的価値を幅広く広め、文化財に対する意識を高める。	・世界無形遺産登録に向け、文化庁と協働で資料等の作成、地域と一体となって登録に向けた啓発活動を行っている。	教育委員会
			歴史や文化に親しみ、理解を深めることで、文化財の保護に対する意識を高め、次世代への継承を図る。	歴史や文化に親しむ場の整備、活用の推進	市民・観光客	施設等の整備や活用により郷土の歴史を周知し、次代に伝える。また、観光客に高山の歴史を感じてもらうことで、リピーターを増やす。	・まちの博物館における、年4回の特別展の開催、風土記の丘学習センター、市政記念館などでの展示の充実やイベントの開催をしている。
3	親しみ理解する機会の充実	歴史や文化に親しみ、理解を深めることで、文化財の保護に対する意識を高め、次世代への継承を図る。	景観にふさわしい標識や散策ルートの整備	市民・観光客	標識等の整備により郷土の歴史を周知し、次代に伝える。また、観光客に高山の歴史を感じてもらうことで、リピーターを増やす。	・無電柱化の推進、文化財標柱の整備、文化財説明看板の多言語化を行っている。	教育委員会
			歴史や文化を理解する機会の充実	市民・観光客	展示会等の開催をとおして郷土の歴史を周知し、次代に伝える。また、観光客に高山の歴史を感じてもらうことで、リピーターを増やす。	・まちの博物館や風土記の丘学習センターでの特別展の開催、土器づくり、勾玉づくりの開催、赤保木町内会等との協働でのイベント開催、歴史講座の開催をしている。	教育委員会

2 指標の推移

指標名	単位	関連 施策	好まし い 方向	H21	H22	H23	H24	目標	指標値の把握方法 目標値設定の考え方
市指定文化財の修理数	件	1-ア	→	2	—	3	3	1	年次計画による、文化財の修理数 毎年、計画的に修繕を行う
伝統的建造物群保存地区修理・修景数	件	1-イ	→	10	10	10	7	10	年次計画による、伝建地区建物の修理数 毎年、計画的に修繕を行う
資料の流失、散逸を防いだ件数	件	1-ウ	→	18	55	65	60	50	郷土資料の購入数 情報を収集し、可能な限り資料の流出を防ぐ
文化財保護団体に対する補助。	件	1-エ	↑	46	46	46	47	47	補助団体数 文化財を保存活用する団体を支援する
ボランティア講座の開催	回	1-オ	↑	8	8	12	17	18	ボランティアの育成やスキルアップのために講座を開催する
刊行がなされた市史等の巻数	冊	1-キ	→	6	6	1	1	1	年次計画に基づき、年に1刊づつ発行する
整備歴史街道数	箇所	2-ア	→	1	3	3	2	2	継続的にに街道を整備することで、郷土の歴史を次代に伝える
各施設(まち博を除く)自主事業回数	回	3-ア	↑	3	6	6	6	6	各施設において、自主事業を年に1回以上開催
指定文化財等の説明看板、石柱等作製設置	箇所	3-イ	→	53	43	40	35	8	平成26年度までに地域振興予算での石柱等の設置は終了
まちの博物館(郷土館)特別展開催数	回	3-ウ	↑	1	—	4	4	4	年間に4回以上の特別展を開催
担当部局	補足説明								
教育委員会	・平成23年度に飛騨高山まちの博物館がオープンし、それに伴う資料購入やボランティア講座、特別展の回数が増加している。								

3 市民アンケートの結果

		現在の「満足度」		今後の「重要度」		市民満足度を高めるために改善等を行う優先度	
H21 (前回)	点数	65.8	(平均) (54.6)	76.1	(平均) (79.7)	IV	低い
	順位	42施策中 3 番目		42施策中 29 番目			
H25 (今回)	点数	66.9	(平均) (56.9)	78.3	(平均) (81.8)	IV	低い
	順位	43施策中 4 番目		43施策中 32 番目			



※「満足度」、「重要度」・・・まちづくり市民アンケートに対する各項目の回答件数をもとに点数化した数値

$$\text{満足度} = \frac{(\text{満足}) \times (50) + (\text{やや満足}) \times (25) + (\text{やや不満}) \times (-25) + (\text{不満}) \times (-50)}{(\text{回答数}) - \{(\text{分からない}) + (\text{無回答})\}} + 50$$

$$\text{重要度} = \frac{(\text{重要}) \times (50) + (\text{やや重要}) \times (25) + (\text{あまり重要でない}) \times (-25) + (\text{重要でない}) \times (-50)}{(\text{回答数}) - \{(\text{分からない}) + (\text{無回答})\}} + 50$$

※市民満足度を高めるために改善等を行う優先度

「満足度」が平均未満で「重要度」が平均以上の施策	→	I 優先度が「高い」
「満足度」が平均以上で「重要度」が平均以上の施策	→	II 優先度が「やや高い」
「満足度」が平均未満で「重要度」が平均未満の施策	→	III 優先度が「やや低い」
「満足度」が平均以上で「重要度」が平均未満の施策	→	IV 優先度が「低い」

4 一次評価(担当部局による評価)

担当部局		教育委員会事務局	
施策	施策の内容	七次総合計画における検証(成果や課題)	今後の方向性
文化財などの保存・伝承	歴史的に価値ある建造物、遺跡、伝承芸能、歴史資料などの保存・活用	<ul style="list-style-type: none"> ・国・県・市文化財補助、埋蔵文化財の発掘調査、伝統芸能保存会への補助等を行い、文化財の所有者に対し、保存活用の支援を行った。 ・所有者や管理者の管理が行き届かない文化財があり、その調査や把握が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き文化財の所有者に対し、支援や補助を行い、文化財の保護や活用を進める。 ・各地域の文化財をその現状を調査し、計画的に修理や保全に努める必要がある。
	重要伝統的建造物群保存地区における修理修景や防災対策、その周辺地区も含めた歴史的町並みの再生	<ul style="list-style-type: none"> ・伝建地区内の無電柱化及び道路美装化の推進を行った。 ・無電柱化やそれに伴う道路修景については、平成25年度で終了となる。 ・伝建地区の建物についての修理修景への補助、グループ自火報など防災設備への補助を行っている。 ・下二大新伝建地区のグループ自火報については平成26年度までで完了する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き伝建地区の修理・修景に対し、支援や補助を行い、伝建地区の景観の向上を図る。 ・伝建地区の防災計画などの見直しを図る必要がある。 ・上町のグループ自火報未設置地域の検討を行う。
	地域に埋もれている貴重な文化遺産や歴史ある地域資源の調査・再発見	<ul style="list-style-type: none"> ・高山に縁のある郷土資料の購入を積極的に行った。 ・新たな購入資料や寄付された資料等を特別展などで展示し、活用している。 ・資料等の調査や活用について特別展での展示以外の方法等を検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き高山に縁のある郷土資料の購入を行い、資料の充実を図る。 ・支所地域の資料等、調査の方法などを検討していく。 ・郷土学習での資料活用などの検討
	伝統文化、伝承芸能、伝統行事、伝統の技や味などを継承できる後継者の育成や映像での記録	<ul style="list-style-type: none"> ・各伝統芸能保存会への補助を行い、継承への支援をしている。 ・ふるさと伝承芸能をDVDに記録し、その貸出を行うことで広く活用している。 ・支所地域などでは、保存会などの人手不足により伝承芸能や伝統行事を続けられない例がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きふるさと伝承芸能記録製作、伝統芸能保存会への補助を行い、後継者の育成や記録の充実を図る。 ・美しいふるさと認証制度を創設し、幅広い活動を市民へ周知し、活動に対する士気の高揚を目指す。
	地域の歴史を守り伝える活動や技術の継承を行う人材の育成による文化財の保存・活用	<ul style="list-style-type: none"> ・まちの博物館でのボランティアガイドの充実を図るための講座を開催している。 ・まち博では読み聞かせや紙芝居などのボランティアが来場者に民話を伝え、多くの人に地域の文化に触れる機会を設けている。 ・高山歴史講座の開催を行うことで多くの市民が高山の歴史や文化などを語る、「語り部」の育成を目指す。 ・各支所地域で文化財講座を開催し、地域の歴史や文化遺産に誇りや愛着を持ってもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民全部が高山の歴史や文化などを語る、「語り部」の育成を目指す。 ・ボランティアガイドや読み聞かせボランティアなどの活動を支援し、講座等を開催する。 ・様々な講座を開催し、より多くの市民に歴史や文化の興味を持ってもらう。
	文化財指定建造物や伝統的建造物群保存地区における建造物の耐震化・バリアフリー化・建築規制緩和に向けた調査	<ul style="list-style-type: none"> ・伝建地区等木造建築の耐震化マニュアルの作成に向けた建物調査を行った。 ・景観町並保存会との協働でのアンケート調査等を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・木造建築の耐震化マニュアルに基づく、耐震化を推進する。 ・建築規制緩和に向けての調査を行う。

	市や地域の歴史刊行物の編集	<ul style="list-style-type: none"> ・「国府町史」の発行、高山市史資料編として「高山城下町絵図」「飛騨国絵図」を発行した。 ・現在、市史「建築物編」の作成中 ・「高山城下町絵図」「飛騨国絵図」に関する特別展や講座を開催し、歴史や文化への関心を高めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高山市史発行計画に基づいた作成を行う。 ・A4判のテーマ別に分けた体裁にし、学校等の学習に利用されやすくする。 ・市史発行に合わせた特別展や講座を開催することで、より市史への関心を高める。
歴史・文化を活用した地域づくり	旧矢嶋邸の復元的整備や寺院群などを巡る周遊ルートの整備、歴史的な街道や街道沿いの農山村集落などの景観の保存・活用	<ul style="list-style-type: none"> ・まちの博物館を拠点とした周遊マップを作成した。越中街道や平湯街道など歴史的な街道の調査及び整備を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き越中街道や平湯街道など歴史的な街道の調査及び整備の充実を図る。
	世界文化遺産登録への取り組みの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・無形文化遺産登録に向け、文化庁と協働で資料等の作成の準備を行っている。 ・地域と一体となって登録に向けた啓発活動を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・無形文化遺産登録に向け、ユネスコからの情報を取り入れ、文化庁と協働で資料等の作成する。 ・引き続き全市民へ登録に向けた啓発活動を行う。
親しみ理解する機会の充実	歴史や文化に親しむ場の整備、活用の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・まちの博物館における、年4回の特別展の開催している。 ・風土記の丘学習センターや市政記念館などでの展示の充実やイベントの開催をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きまちの博物館における年4回の特別展の開催をする。 ・風土記の丘学習センター、市政記念館などの展示の充実やイベントを開催する。
	景観にふさわしい標識や散策ルートの整備	<ul style="list-style-type: none"> ・下二之町と表参道の無電柱化を行い、景観保全を行った。 ・大新町の無電柱化の推進を行っている。(平成25年度終了予定) ・文化財標柱の整備、文化財説明看板の多言語化を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、景観に合わせた文化財標柱の整備、文化財説明看板の多言語化や設置を行う。
	歴史や文化を理解する機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・まちの博物館や風土記の丘学習センター、市政記念館などの文化財施設での特別展の開催した。 ・土器づくり、勾玉づくりの開催、赤保木町内会等との協働でのイベント開催、歴史講座の開催をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各小中学校で高山の歴史についての授業や町探検などを行い、歴史等についての理解の機会を増やす。 ・まちの博物館で特別展の開催やそれに合せたウォークラリーなどのイベントを開催する。 ・風土記の丘学習センターでの特別展の開催、土器づくり、勾玉づくりなどを開催し、多くの人に縄文時代等の暮らしに触れてもらう。
	総括	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財などの保存・伝承については、今までどおり所有者等への支援を行う一方、地域の保存会などと協働で取り組み、文化財の重要性を理解いただく取り組みも必要である。 ・歴史・文化を活用した地域づくりについては、歴史街道などの整備を行うだけでなく、歴史的な背景等についても広く伝える必要がある。 ・親しみ理解する機会の充実については、各地域での広がり考えた施策が必要である。城下町地区においてはまちの博物館を拠点とした歴史や文化を理解する機会を充実させる。その他の地域については、それぞれの特色を活かした文化財等を活用し、学校との連携で理解を深めていく必要がある。 	

5 二次評価(企画課、総務課、財政課評価)

課題	今後の方向性
<p>主な課題としては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統的な行事等の後継者が不足している。 ・様々な文化財や施設の活用が十分ではない。 <p>といったことが上げられる。</p>	<p>市民アンケートの結果、施策に対する現在の満足度が高く、今後の重要度が低くなっているが、先人たちの英知と努力により築かれ受け継がれてきた伝統文化は、本市の貴重な財産であるため、歴史文化基本構想をはじめとした諸計画に基づき、文化財などの保存・伝承、歴史・文化を活用したまちづくりを推進していく必要がある。</p> <p>特に、後継者の育成や文化財等の効果的な活用について、地域や学校と連携して取り組んでいく必要がある。</p>

6 外部有識者の評価・意見

七次総合計画における検証に対する評価・意見
<p>・各施策の内容について検証は「～を行った」とのみ記載され、どの程度の成果が得られたのか不明である。同様に今後の方向性も定性的に今後取り組むことが記載されているだけで、その必要性や重要性等は不明である。</p> <p>・文化財の保存・伝承は、ある程度その対象等が明確であることから、それらについて計画的に取り組んでいく過程で、進捗状況の評価・課題抽出が為されるものであり、その点での達成状況や課題分析が不明確である。</p>
今後の方向性に対する評価・意見
<p>・保存・伝承については対象の明確化と中長期にわたる計画的な対応が必要である。</p> <p>・市民への理解・啓発が後継者の育成や地域づくり等にもつながるが、そのためには固有の歴史・文化への価値、市外等外部からみた評価を高め、市民がそれに気づき・誇りを持ち・守る意欲が湧くようにしていくことが必要。単なる啓発だけでは効果は薄い。</p> <p>・産業・観光資源でもある文化遺産・街並みの修理修景等には、その費用を観光客等から得る等費用対効果を高める仕組み等を設けることも必要である。</p>
その他意見
<p>・主な取り組みが文化財・施設等の保存であることから、対象の明確化と計画的な取組に向け、どのような課題があり、どの様に対応していくのかを次期総合計画には明確化すべきである。</p> <p>・課題が明確になれば、予算の確保なのか、権利者等の理解を得ることなのか、市民の理解や参画を求めることなのかという具体性のある方策の姿が浮かび上がってくる。</p>

【参考】基本施策に関連する予算事業の分析・評価(平成25年度事業評価における担当課評価)

関連 施策	事業 コード	事業名	評価					点数	事業費決算額(千円)	
			市民ニ ズの確 認	市が実 施する必 要性	活動内 容の有 効性	執行方 法の効 率性	政策面 における 評価		H23年度	H24年度
1-ア	94703	市内遺跡発掘調査事業	A	A	B	B	B	70	4,808	4,120
1-ア	94710	郷土資料・図書購入事業	B	A	A	B	B	70	10,662	6,944
1-ア	94730	文化財保護事業補助金	A	A	A	B	A	90	5,980	6,007
1-ア	94733	国指定文化財保存修理事業	A	A	A	B	B	80	0	2,245
1-ア	94740	市指定文化財保存修理事業	A	A	A	B	B	80	11,277	9,999
1-ア	94760	高山祭屋台保存修理事業	A	A	A	B	A	90	37,934	37,901
1-イ	94755	伝統的建造物群保存地区保存事業	A	A	A	B	A	90	40,420	40,487
1-イ	94757	伝統的建造物群保存地区防災対策事業	A	A	B	A	A	90	40,000	39,958
1-イ、3-イ	94758	歴史的町並再生事業	B	A	A	B	B	70	232,247	152,225
1-エ、カ	94754	歴史的風致維持再生事業	B	A	B	A	B	70	0	0
1-キ	94783	市史編纂事業費	B	A	A	B	A	80	5,769	6,385
2-ア	94759	歴史的遺産等保存活用事業	B	A	B	B	A	70	3,867	3,811
2-イ	94753	世界文化遺産登録推進事業	B	A	B	B	B	60	146	100
3-ア、ウ	94800	飛騨高山まちの博物館管理費	A	A	A	B	A	90	20,736	27,817
3-ア、ウ	94815	風土記の丘学習センター等管理費	B	A	B	B	A	70	3,668	8,023
3-ア、ウ	94840	文化財施設管理費	B	A	B	B	A	70	42,785	43,967
3-ア、ウ	94845	飛騨高山まちの博物館特別展開催事業費	A	A	A	B	B	80	1,604	1,190
3-イ	94750	文化財啓発事業	B	A	B	B	A	70	4,960	3,839

集 計	区分	個数					平均点	H23年度	H24年度
	A	9	18	10	2	10	77.22	466,863	395,018
	B	9	0	8	16	8			
	C	0	0	0	0	0			
	-	0	0	0	0	0			